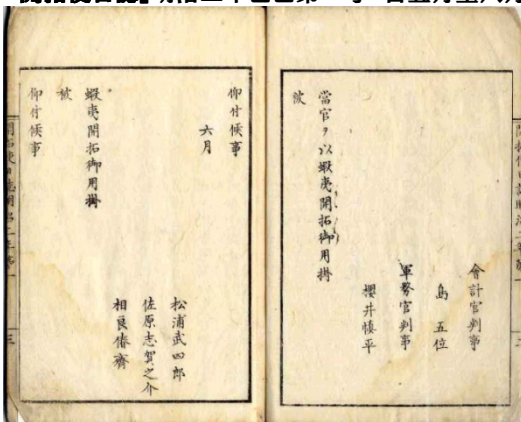


第5章 新政府への登用と任務

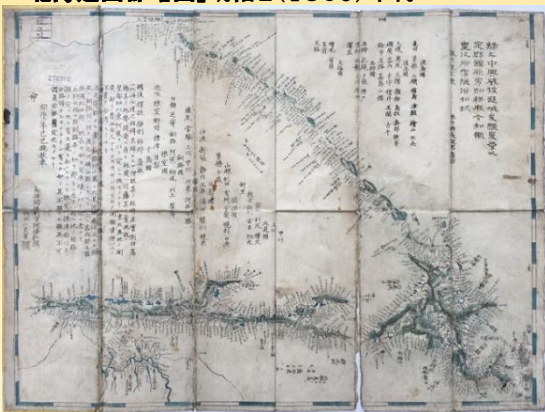
明治新政府にとって蝦夷地の開拓は重要な課題の一つでした。武四郎は、蝦夷地に詳しい知識をもつ人物として大久保利通に推薦され、慶応4(1868)年4月に幕府の箱館奉行所を引継ぐ行政機関、徴士箱館府の判府事(府知事に次ぐ重職)となりました。しかし、戊辰戦争が終結するまで政府は蝦夷地の本格的な開拓に着手できず、武四郎は箱館府へ赴任することなく、東京府郡政局御用掛として東京府の民政に関わりました。明治2(1869)年5月、榎本武揚らの旧幕府軍が降伏し戊辰戦争が終結すると、やっと開拓使が設置され本格的な蝦夷地開拓が始まります。武四郎は、同年6月、開拓使(蝦夷開拓御用掛)に任命されると、すぐに新政府へ北海道の山道や道路の開削を提言しています。その1ヶ月後の7月に、蝦夷地に代わる新しい名称の選定、国郡名の設定を任務として与えられ、7月に国郡案を提出しました。そして同年8月15日、太政官布告により蝦夷地は北海道と命名され、11ヶ国86郡の国郡名は武四郎の案のほとんどが採用されました。武四郎の功績ともいえる「北海道国郡全図」と「北海道国郡略図」を見てみましょう。

「開拓使日誌」明治二年己巳第一号 自五月至八月



6月の記事には、島義勇、桜井慎平、松浦武四郎、佐原志賀之介、相良俣齋が「蝦夷開拓御用掛」に任命されていることがわかります。

「北海道国郡略図」明治2(1869)年刊



明治2(1869)年8月15日付、太政官布告にて決定した北海道の国名・郡名が細かく彫られています。

「北海道国郡全図」明治2(1869)年刊



武四郎は、開拓使から北海道の地図作成を命じられ、北海道全島を中心に樺太島から千島列島、カムチャッカ半島まで記録した色刷木版地図を作りました。